

準硬式野球部、 宮城の地で勝利を掴め！

十八年ぶり出場 清瀬杯の舞台で



神戸大学準硬式野球部は本年度、十八年ぶりとなる清瀬杯出場を果たす。五月から行われた関西地区予選を勝ち抜いて掴み取った、代表枠である。神大準硬は、関西六大学野球連盟（他関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学、大阪大学）に所属し、春と秋の年二回のリーグを戦い抜く。本年度の春季リーグの結果は第五位。例年ならば、この春季リーグをもって四年生の引退であった。しかし、前年度、同連盟所属の立命館大学が清瀬杯で優勝。関西地区予選に進める枠が一つ増えたのである。神大準硬にとって、願ってもない大チャンスであった。五月から始まった関西地区予選一次トーナメントを三連勝で勝ち抜き、迎えた二次トーナメント。一回戦の相手は兵庫教育大学。試合日の天候は雨。三回までに二失点を許してしまふ。そんな中、四回に三点を返し逆転すると五回雨天コールドで勝利を収めた。神大準硬の底力を見せつけた一戦となった。二回戦の相手は春季リーグ一敗一分けの立命館大学。前半、両校無失点が続くも後半に得点を許し、惜しくも一―四で敗北。

全日本大学選手権代表枠をかけた決勝戦に駒を進めることはできなかった。しかし、まだ清瀬杯出場のチャンスが残っていた。相手は、阪神六大学リーグ優勝の阪南大学。前半から神大準硬のペースで試合が進み、大量得点。七回コールド八―一で、見事十八年ぶり三回目の清瀬杯出場を掴み取った。

神戸大学準硬式野球部は選手数は二回生以上で二十三名。強豪校に比べ、圧倒的に少ない。理系学部など授業が忙しい部員も多く、全体練習も週一、二回と決して多くない。しかし、部員数や練習回数の少なさに負けない、強さが神大準硬にある。どんな試合展開であっても最後まで粘り強く戦い抜く、不屈の精神。この不屈の精神で、何度も勝利を掴み取ってきた。宮城の地でも、神大準硬らしい不屈の野球で勝利を掴む。神大準硬の夏はまだまだ終わらない。



阪南大学を7回コールド8-1で下し、清瀬杯出場を勝ち取った。



四回生にとっては最後の大会となります。勝つことはもちろん、楽しむことも忘れず戦っていきます。応援よろしくお願いします！（法・中村主将）

選手メッセージ



一勝でも多く勝ち進めるよう守備を引っ張って貢献します。神大の連携の取れた硬い守備にご注目ください。（医・早川副将）